第Ⅲ章 区の芸術文化施策の現状

1 荒川区の地域文化

2 区政世論調査の結果（概要）

3 第三次プランの取組状況

1 荒川区の地域文化

荒川区には、地域の歴史に根ざした良き伝統と文化があります。区における一層の芸術文化の振興に役立てるため、荒川区の地域文化の特徴等を改めて整理します。

(1) 地域の歴史にもとづく文化

荒川区は、地域に根差した歴史と豊かな文化が息づくまちです。例えば、南千住は、江戸から日光へ通ずる日光道中（日光街道）の最初の宿場町として古くから栄え、多くの史跡があります。松尾芭蕉・奥の細道の「矢立初めの地」としても非常に有名です。

日暮里は、江戸時代中期から「ひぐらしの里」「道灌山」などが名所として浮世絵に多く描かれ、江戸近郊の行楽地として賑わってきました。俳句のゆかりの地であり、談林派の祖、西山宗因や小林一茶、種田山頭火などの句碑があるほか、明治時代、根岸に住んでいた正岡子規もたびたび訪れて俳句を詠んでいます。

また、江戸時代、荒川の地では江戸で消費される野菜が栽培されていました。そのひとつ、「三河島菜」は、味のよい漬菜として、当時の書物にも描かれており、鷹狩りに訪れた将軍にも献上されたという記録が残っています。「谷中生姜」は、当時の谷中本村、今の西日暮里 1～2 丁目付近で栽培されていましたが、関東大震災を機に農地の宅地化が進み、名産の蔬菜（そさい）類の栽培も消滅しました。いずれも現在、江戸東京伝統野菜として改めて注目されています。

(2) 人情あふれる下町情緒などの下町文化

荒川区内は、近代的なマンションが増加する一方で、今も、細い路地や古い家々、銭湯のほか、点在する神社や寺院、個人商店や町工場、都電荒川線の走る風景などにより独自の街並みを残しています。

また、人々の暮らしの中に、天王祭などの地域の伝統行事や祭り、盆踊りや縁日などの祭礼や年中行事が受け継がれるとともに、助け合いの精神や隣人を思いやる心のあたたかさなど、「下町情緒」が醸成されています。

さらに、加太こうじなど多くの作家が集い名作を生み出した紙芝居や、「ぬりえ美術館」（令和 4 年（2022 年）閉館、作品の一部は区に寄贈）により発信されてきたぬり絵文化、南千住出身の下町の空想画家・小松崎茂が生み出した絵物語の世界、荒川を舞台とした「巨人の星」、「あしたのジョー」などの漫画・アニメーション、凧揚げやベーゴマなどの昔遊びなど、子どもから大人まで楽しむことができる、庶民の生活に根付いた文化があります。

こうした荒川区の「下町文化」を貴重な資産として継承し、発展させていくことが大切です。

(3) 伝統文化や伝統工芸技術

荒川区内には、江戸時代から伝承されてきた「江戸の里神楽」(国指定重要無形民俗文化財)に代表される伝統芸能、落語・講談などの江戸の伝統的な文化や芸能を受け継ぐ人々が活躍しており、上演に関する情報提供や区の文化施設での公演などその普及に努めています。

また、区内には、江戸の技術を今に伝える多様な伝統工芸技術を有する職人が多くいます。その業種は、金工・木竹工・人形・漆芸・染織・諸工芸など多岐にわたります。職人たちは、その伝統に裏付けられた技術を引き継ぎながらも、時代のニーズに合わせて独自の工夫を加えながら、様々なものを作り出しています。荒川区では伝統工芸技術を区の「無形文化財(工芸技術)」として登録・指定し、その職人を保持者として認定するとともに、「あらかわの伝統技術展」や「あらかわ学校職人教室」等の開催、常設展示施設である「あらかわ伝統工芸ギャラリー」の開設、さらに若手職人を育成する「荒川の匠育成事業(荒川区伝統工芸技術継承者育成支援事業)」の実施により、技術の保存継承・普及・活用に努めています。

こうした優れた文化や技術を大切にし、後世に伝えるとともに、その魅力や価値を広く区内外に発信すること、さらには社会の変化に応じ展開することが求められています。

(4) モノづくりや繊維・ファッションに関する文化

荒川区には数多くのモノづくり企業や職人がおり、試行錯誤を繰り返しながら培われてきた技術や、 世代を超えて受け継がれてきた技と心は、地域の大きな財産となっています。区内のすぐれた技術、製品を区内外に力強くアピールするため、区内の「モノづくり見学・体験スポット」の製品等の展示・販売・体験等を行う「あらかわモノスポ」の開催や、モノづくりブランド「ara!kawa」立ち上げによるブランディングを推進しています。

また、日暮里を中心に、ファッションやデザインなどに関連の深い産業が集積しています。特に、JR日暮里駅から日暮里中央通りを中心に約90店の店舗が軒を連ねる「日暮里繊維街」は、和装、洋装、紳士・婦人服地、子供服、繊維製品、服飾関連の小物や付属品など、生地織物に関するあらゆるものを取り扱っているため、国内外からの多くの買い物客で賑わっています。毎年秋頃には、「繊維の街・ファッションの街」を全国にアピールするとともに、これからの繊維・ファッション産業を支える人材を育成するため、ふらっとにっぽりでファッションデザインコンテストを開催しています。

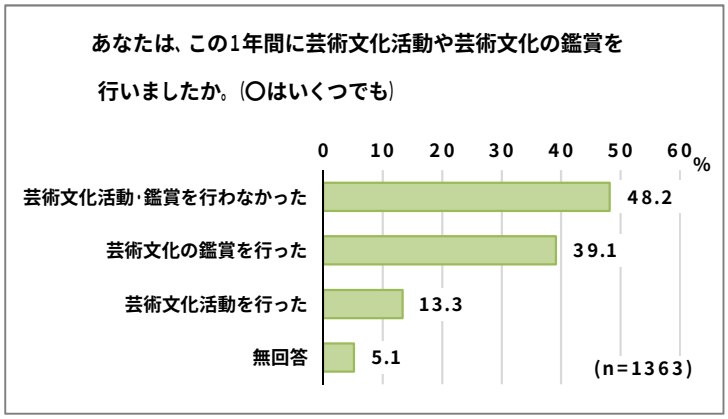
こうした技術や産業などを含む幅広い活動に対して、芸術文化の力で新たな価値を付加することにより、モノづくり産業の活性化を目指すことが求められています。

2 区政世論調査の結果（概要）

令和 4 年（2022年）度に区民の芸術文化活動に対する意識を調査するために実施した荒川区政世論調査の結果から浮かび上がった区民の芸術文化活動の実態や意識を踏まえ、芸術文化のさらなる振興に向けた今後の課題について整理します。（課題については、第Ⅲ章の3に記載しています。）

○芸術文化活動・鑑賞の実施率

「活動・鑑賞も行わなかった」が、全体の 48.2%で最も多く、「鑑賞を行った」は全体で 39.1%、「活動を行った」は 13.3%でした。

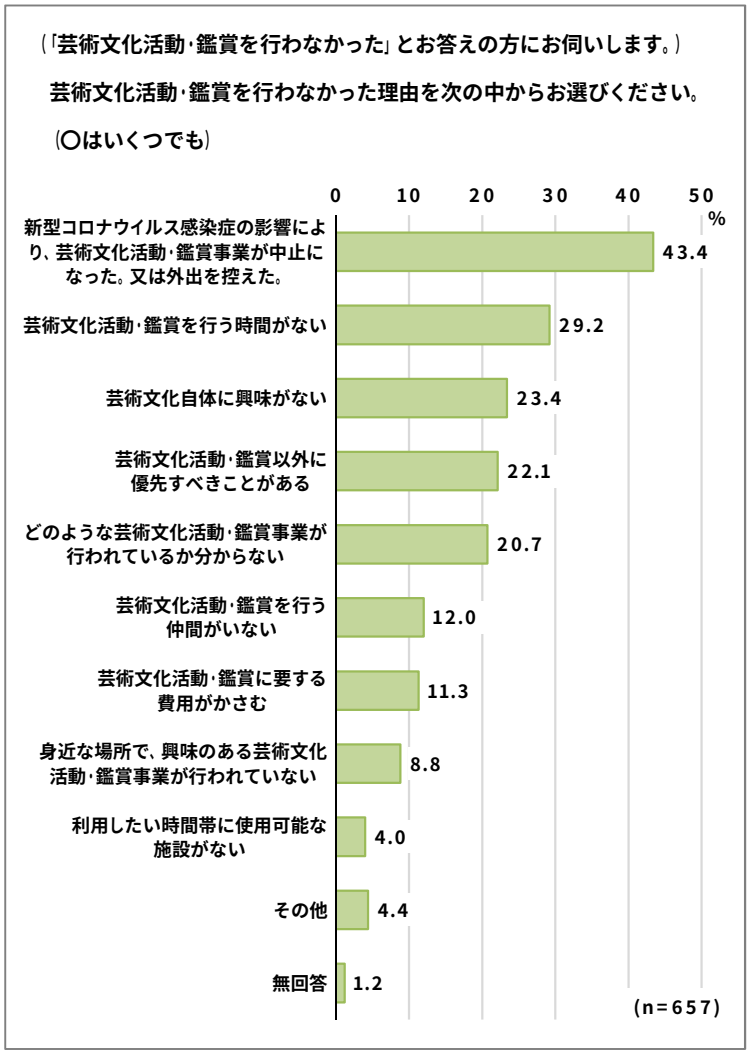


○芸術文化活動・鑑賞を行わなかった理由

「新型コロナウイルス感染症の影響により、芸術文化活動・鑑賞事業が中止になった。又は外出を控えた」が4割半ば近くで最も高く、次いで「芸術文化活動・鑑賞を行う時間がない」が29．2%となっています。

年代別では、特に 60 代以上で「新型コロナウイルス感染症の影響」による割合が高く、一方、30・40 代で、「芸術文化活動・鑑賞を行う時間がない」、「芸術文化自体に興味がない」、「芸術文化活動・鑑賞以外に優先すべきことがある」の割合が高くなっています。

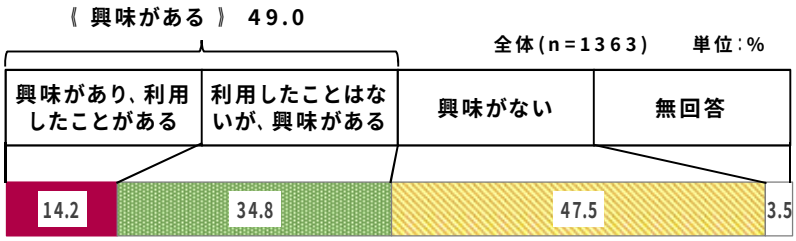
（年代別の調査結果については、「資料編 6 第 47 回荒川区政世論調査(令和 4 年度)実施結果(詳細)」に記載しています。）



○オンラインによる芸術文化の鑑賞や講座受講への興味

「興味があり、利用したことがある」と「利用したことはないが、興味がある」を合わせると約5割が興味があると回答しています。全世代を通してオンラインによる芸術文化の鑑賞や講座の受講等への興味が3～6割となっています。

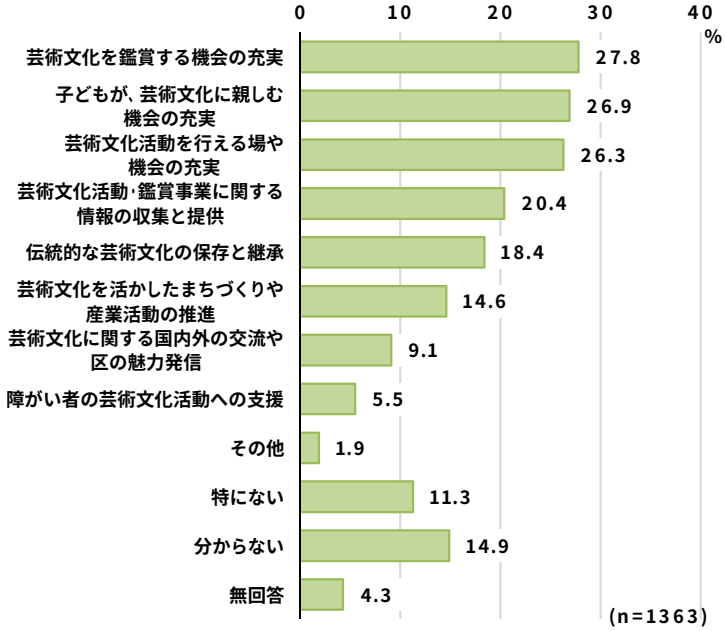
新型コロナウイルス感染症の影響により、公演等の中止や延期など、芸術文化活動の多くが制約を受けました。一方で、ICT技術の活用により、新しい芸術文化の楽しみ方も生まれてきています。あなたは、インターネットのオンライン配信による芸術文化の鑑賞やオンライン会議システム等を用いた講座の受講等に対して、興味がありますか。(○は1つだけ)



○区の芸術文化の振興のため充実させるべきもの

「芸術文化を鑑賞する機会の充実」が27.8%と最も高く、「子どもが、芸術文化に親しむ機会の充実」が26･9%、「芸術文化活動を行える場や機会の充実」が26.3%となっています。

荒川区の芸術文化の振興を図る上で必要な取組のうち、区が更に充実させていくべきものは何だとお考えですか。重要だと考えられるものを次の中からお選びください。(○は3つまで)

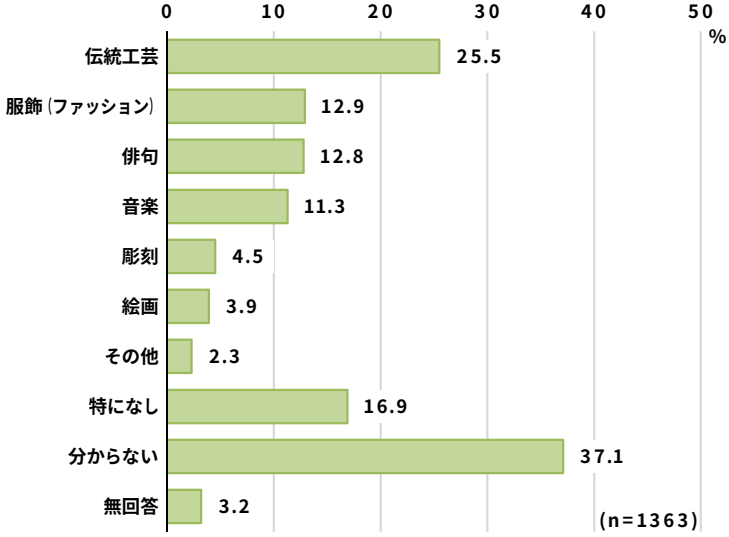


○区の芸術文化で特色のある分野

区の特色ある芸術文化についての認知度については、「わからない」が37.1% と最も高くなっています。

特色ある分野の中では、「伝統工芸」(25.5%)、が最も割合が高く、「服飾(ファッション)」(12.9%)、「俳句」(12.8%)と続いています。

荒川区における芸術文化について、特色があるとお考えの分野は次のどれでしょうか。(○は3つまで)



3 第三次プランの取組状況

ここでは、平成 31 年（2019 年）3 月に策定した第三次プランで掲げた施策について、5 つの基本目標ごとに、主な成果を整理し、世論調査の結果等を踏まえて、評価します。

基本目標1　区民の芸術文化活動を活性化する

1ー1 芸術文化に触れ楽しむ機会の提供や環境の整備

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年（2020年）・3年（2021年）度は、音楽や演劇等の鑑賞事業などの多くの事業が中止・延期・規模縮小となり、区民の芸術文化活動が大きく制限されました。しかしながら、令和4年（2022年）度からは、一部の事業については、各種団体のガイドラインに基づく感染症対策を講じた上で、また、オンライン配信等の手法を活用しながら、子どもから高齢者まで、幅広い芸術文化の鑑賞事業等を再開しました。

文化施設等における音楽や演劇等の鑑賞事業や、区内各所に彫刻等の作品を設置し、二次元バーコードを整備することで、区民が身近に彫刻作品等を楽しむことができる機会を提供する「あらかわ街なか美術館」事業を開始するなど、区民が身近な場所で良質な芸術文化に触れる機会を提供しました。

また、町屋文化センターのリニューアルなど、区民が芸術文化活動を行う活動拠点や発表場所となる文化関連施設の整備・充実を図りました。

主な事業

○音楽や演劇等の鑑賞事業
（区内文化施設やふれあい館・ひろば館等での演奏や演劇等の公演）
○彫刻の街づくり事業
（区施設への彫刻作品等の設置、「あらかわ街なか美術館」の整備等）
○ギャラリーの貸出や文化関連施設等の整備・充実
・町屋文化センターふれあい広場等のリニューアル改修
・「1－1－1（わん わん わん）ラウンジ」（サンパール荒川内）の活用（ラウンジコンサート等）　等

▲若手アーティストによる無料のコンサート

▲あらかわ街なか美術館ワークショップ

【評 価】

※凡例 ●:成果 ■:課題

● コロナ禍においては、デジタル技術を活用したオンライン配信等の新しい手法による、芸術文化の鑑賞や参加の機会が生まれました。

音楽や演劇等の鑑賞事業については、来場者が、演者と同じ空間を共有し、体感することを求めていることから、オンライン配信により完全に代替することは難しい状況もありましたが、芸術文化を学ぶ講座などの事業をオンライン開催するなど、様々な人が自宅等から気軽に参加することができる、新たな手法による鑑賞や活動への参加方法についてノウハウを蓄積することができました。

● 文化関連施設については、町屋文化センターのリニューアルに伴うギャラリースペース等の充実や街なかピアノの設置、そのピアノを活用したコンサート等を実施しました。また、サンパール荒川等文化関連施設への Wi-Fi 環境整備や、施設運営を行う指定管理者との緊密な連携による共催事業や自主事業の取組の推進など、区民の活動拠点・発表場所となる環境整備の充実を図りました。

■ 文化関連施設の老朽化に伴い、建物・設備の適切な改修・保守管理を行いつつ、長期保全を図っていく必要があります。

＜区政世論調査結果から見える課題＞

■ 芸術文化活動・鑑賞の実施率について、「活動・鑑賞も行わなかった」が、48.2%と最も高く、次いで「鑑賞を行った」が 39.1%、「活動を行った」が 13.3 %となっています。「活動・鑑賞も行わなかった」理由として、コロナ禍において「芸術文化事業が中止になった。又は外出を控えた」ことによるものが、特に 60 代以上で最も多くなっています。

そのため、コロナ禍を経て、区民が再び安心して芸術文化に触れ楽しむことができる機会をさらに充実させていく必要があります。

■ 一方、30・40 代では「芸術文化活動・鑑賞を行う時間がない」や「芸術文化活動以外に優先すべきことがある」の割合が高くなっています。この世代では子どもが芸術文化に親しむ機会を求める割合が高いことから、オンラインの活用や子どもを通した芸術文化活動を推進するために、親子向けの事業の充実を図っていく必要があります。

■ オンラインによる芸術文化の鑑賞や講座受講等への興味が約半数となっていることから、オンラインでの動画配信により楽しめる芸術文化の鑑賞事業や講座受講など、自宅等にいながら、気軽に芸術文化に親しむことができる機会を拡充していく必要があります。

1ー2 情報内容･情報提供手段の充実

区民の芸術文化活動の活性化に寄与できるよう、様々な媒体を活用し、区民が求める情報内容の充実を図り、提供しました。

主な事業

○区報、ホームページ、SNS による情報提供･情報発信
○ケーブルテレビ、区公式 YouTube チャンネル等を活用した映像によるまちの魅力発信 等

▲区公式 YouTube による発信

【評 価】 ※凡例 ●:成果 ■:課題

■ 従来からの区報や情報誌等の紙媒体のほか、SNS や区公式 YouTube チャンネル等を通して、写真や映像を活用した情報提供を行うなど、情報発信内容の充実を図りました。区民に、より分かりやすく、より広く情報を伝えるためには、対象に応じて情報内容･提供手段をさらに工夫していく必要があります。

＜区政世論調査結果から見える課題＞
■ 「芸術文化活動･鑑賞を行わなかった」理由として、「芸術文化自体に興味がない」が 23.4%、「どのような芸術文化活動･鑑賞事業が行われているか分からない」が 20.7%となっていることから、芸術文化に対する区民の興味喚起や区内で実施している芸術文化関連事業についてさらなる周知を図っていく必要があります。

1－3 区民や区民団体・関係団体との連携・支援

芸術文化団体や東京藝術大学、芸術家グループ等との連携事業の実施や活動支援を行いました。

芸術文化活動を行う区民や団体等と様々な事業で連携・協働を推進し、区民が主役となる芸術文化活動の一層の振興を図りました。

主な事業

○文化団体連盟との連携や支援事業
・荒川区文化祭や文化総合講座、「あらかわ子ども文化体験フェスタ」
・新型コロナウイルス感染症の影響による芸術文化団体等への緊急支援事業
○俳句関連団体との連携事業（荒川区俳句連盟、松山市、区内学校等との連携）
○区内所在の美術団体、太平洋美術会との連携事業
（ディスカバーあらかわ 「区内の風景・風物展」等）
○東京藝術大学と連携したコンサートやワークショップ等
○多くの地域活動団体等が参加した生涯学習フェスティバル

▲荒川区文化祭（邦楽大会）

▲ディスカバーあらかわ表彰式

【評 価】 ※凡例 ●:成果 ■:課題

● 令和2年（2020 年）・3年（2021 年）度には、コロナ禍において、芸術文化団体等の活動支援を行うため、芸術文化振興基金を活用し、荒川区文化団体連盟に加盟している団体や文化施設の利用団体に対して、地域での継続した事業を実施するための補助事業を実施しました。

＜区政世論調査結果から見える課題＞

■ 「芸術文化の鑑賞を行った」（39.1%）と比較して、「芸術文化活動を行った」（13・3%）の割合が低いことから、 今後は、芸術文化団体、芸術家グループ、大学、関係機関などと緊密に連携を図りながら、区民の主体的な芸術文化活動への参加・体験の機会を広げていく必要があります。

基本目標2　子どもの創造力を高める

2－1 優れた芸術に触れる機会の提供

新型コロナウイルス感染症の影響により、特に令和2年（2020年）・3年（2021年）度は、小中学校での鑑賞事業や子どもを対象とした芸術文化体験事業等の多くが中止や規模縮小となり、子どもが優れた芸術文化に触れることができる機会が減少するなど大きな影響がありました。

しかし、令和4年（2022年）度からは、感染症対策を講じた上で事業を再開し、子ども達が小中学校や区文化施設、ふれあい館・ひろば館等の身近な場所で、音楽や演劇など本物の芸術文化に触れることができる機会を提供してきました。

主な事業

○オーケストラや落語など、小中学校における芸術文化鑑賞事業
○親子で楽しむコンサート等の実施（公益財団法人荒川区芸術文化振興財団（ACC）事業等）
○ふれあい館・ひろば館における観劇事業　等

▲ゆいの森あらかわでの親子コンサート

【評　価】　※凡例　●：成果　■：課題

■ 公益財団法人荒川区芸術文化振興財団（ACC）での事業や藝大連携コンサートなど、親子参加型の事業に対する区民のニーズが高いため、今後も引き続き充実を図っていく必要があります。

＜区政世論調査から見える課題＞

■ 芸術文化を振興していくために区が充実させていくべき取組として、「子どもが、芸術文化に親しむ機会の充実」が26.9%と上位2番目に挙げられており、引き続き充実を図っていく必要があります。

2－2 子どもの芸術文化活動の推進

幼稚園や小中学校における芸術文化活動の一層の振興を図るため、芸術文化団体等と連携・協力を図りながら、伝統文化指導者派遣事業など伝統文化を学ぶ取組等を推進しました。また、学校と連携し、芸術文化活動に必要な物品の充実を図りました。

主な事業

○学校パワーアップ事業
（書道や俳句づくり等、専門家を講師とした芸術文化体験事業）
○伝統文化指導者派遣事業（公益財団法人荒川区芸術文化振興財団（ＡＣＣ）事業）
○伝統文化教育の環境整備事業（茶器、和楽器等の整備）
○あらかわ学校職人教室
○産業技術高等専門学校や荒川工科高校（旧：荒川工業高校）と連携したロボットコンテスト等の体験教室 等

▲産業技術専門学校と連携した体験教室
（「大きな紙ヒコーキを作って飛ばそう！」）

▲あらかわ学校職人教室

【評 価】

※凡例 ●：成果 ■：課題

● 令和4年（2022年）度以降、感染症対策を講じつつ、地域の芸術文化団体等との連携により、書道や俳句、茶道・華道など、子どもが伝統文化を体験する機会の充実を図りました。また、東京藝術大学と連携した幼児期の教育事業を実施しました。

● 学校パワーアップ事業や伝統文化教育の環境整備事業を通して、学校での芸術文化活動に必要な物品の整備を行うなど、小中学校において子どもが芸術文化に触れる環境の充実を図りました。

＜区政世論調査結果から見える課題＞

■ 芸術文化を振興していくために区が充実させていくべき取組として、「子どもが、芸術文化に親しむ機会の充実」が 26.9%と上位 2 番目に挙げられており、引き続き充実を図っていく必要があります。（再掲）

2－3 創造性を育む基礎となる体験機会の充実

地域の芸術文化団体や東京藝術大学等と連携し、子どもの創造力を育む体験型事業の充実を図りました。

主な事業

〇ゆいの森あらかわやふれあい館・ひろば館等における造形遊び等のワークショップ等の実施

〇荒川ふるさと文化館での夏休み子ども博物館
（「あらかわ職人教室」、「リトル学芸員」等の体験教室）

▲子ども対象のアートワークショップ

【評 価】　※凡例　●：成果　■：課題

● ゆいの森あらかわやリニューアルした尾久図書館等の区施設において、芸術文化団体や芸術家グループ等と連携し、豊かで自由な創造力を育む基礎となる様々な体験型事業を展開しました。

■ 子どものリアルな体験の機会は、子どもの創造性を育む上で特に重要であることから、これらの機会が損なわれることがないよう、今後も、芸術文化団体等と一層連携を深めながら、伝統文化の体験や各種ワークショップなど体験型の取組を引き続き充実させていく必要があります。

＜区政世論調査結果から見える課題＞

■ 芸術文化を振興していくために区が充実させていくべき取組として、「子どもが、芸術文化に親しむ機会の充実」が 26.9%と上位 2 番目に挙げられており、引き続き充実を図っていく必要があります。（再掲）

基本目標3　芸術文化を未来に継承する

3－1 伝統的文化の保存･継承と発信

伝統工芸保存会等との協働により伝統工芸技術等の保存･継承を図るとともに、その技術を映像で記録･保存し、区内外に発信しました。

主な事業

○文化財の保護（区指定･登録文化財）
○伝統工芸技術の記録･保存
「伝統に生きるーあらかわの工芸技術ー」の制作･公開　等
○伝統工芸技術継承者の育成支援（「匠育成事業」）
○荒川マイスター表彰事業　等

▲「伝統に生きるーあらかわの工芸技術ー」

▲匠育成事業（修行に励む研修生）

【評　価】　※凡例　●:成果　■:課題

● 荒川ふるさと文化館が中心となって、荒川区伝統工芸保存会等との協働により、文化財の保護や伝統工芸技術の動画等での記録･保存及び区公式 YouTube での発信、継承者の育成支援等を推進しました。

■ 伝統工芸技術の継承については、匠育成事業の新規の希望者が減少傾向にあることから、広く伝統工芸技術及び育成支援事業の PR を行うとともに、引き続き支援事業を充実させ、希望者を募っていく必要があります。

<区政世論調査結果から見える課題>

■ 区の芸術文化で特色のある分野について、「わからない」が 37.1%と最も高く、次いで「伝統工芸」が 25.5%となっています。
荒川区への誇りと愛着を育むため、区外に地域の魅力を発信するだけでなく、区内においても荒川区の財産である伝統工芸の魅力をさらに広く発信していく必要があります。

3－2 歴史や伝統を学び、体験する機会等の充実

「あらかわの伝統技術展」や荒川ふるさと文化館の「伝統工芸ギャラリー」での実演・体験事業「あらわ座」の開催など、区民が、地域の歴史や文化、伝統工芸技術を学び、体験する機会の充実を図りました。

主な事業

○あらかわの伝統技術展
（令和3年（2021年）度は「あらかわ伝統工芸 Week」））
○あらかわ学校職人教室
○ふるさと文化館での「あらかわ職人道場」、「あらわ座」 等

▲あらかわの伝統技術展

▲あらわ座（職人による実演や体験イベント）

※凡例　●：成果　■：課題

【評 価】

● 区内外に荒川区の伝統工芸技術を発信し、体験してもらう機会である「あらかわの伝統技術展」については、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年（2020年）・3年（2021年）度は中止していましたが、その間、ゆいの森あらかわ等で「伝統工芸 Week」を開催し、区民に広くその技術を学び、体験する機会を提供しました。

令和5年（2023年）度には、4年ぶりに、コロナ禍以前と同等規模で開催し、区内小中学生のほか、区内外の多くの人々に荒川区の伝統工芸技術について学び、体験してもらう機会を提供したほか、荒川ふるさと文化館内にある「伝統工芸ギャラリー」での実演・体験事業「あらわ座」も再開しました。

＜区政世論調査結果から見える課題＞

■ 世論調査結果では、区の芸術文化で特色のある分野について、「わからない」が 37.1%と最も高く、次いで「伝統工芸」が 25.5%となっています。

荒川区への誇りと愛着を育むため、区外に地域の魅力を発信するだけでなく、区内においても荒川区の財産である伝統工芸の魅力をさらに広く発信するとともに、区民がそれらの文化をさらに身近に感じられるよう、体験や学習の機会を拡充していく必要があります。

基本目標4　芸術文化で地域力を高める

4－1 芸術文化によるまちづくりの推進

荒川区の歴史や立地など、地域の文化的特色をいかした取組について、一層の充実を図りました。

主な事業

○俳句文化振興事業（「あらかわ俳壇」等の投句事業、講座等）
○俳句活用事業（俳句関連イベントの開催、ラッピング都電の運行等）
○吉村昭記念文学館での企画展開催　等

▲中高生俳句バトルあらかわ

▲吉村昭記念文学館

【評　価】

※凡例　●：成果　■：課題

● 区では平成 27 年（2015年）3 月に荒川区俳句のまち宣言を行い、それ以降、区内の俳句文化振興及び俳句活用事業による区内外へのPRを推進してきました。
投句事業「あらかわ俳壇」への投句数は年々増加しており、区内の俳句文化の振興が着実に進んでいます。また、令和5年（2023年）度からは、区主催俳句事業の最優秀句の中から年間大賞を選定し、表彰する「あらかわ俳句アワード」を創設し、区民等が俳句に触れる機会を創出しています。

● 吉村昭記念文学館では、著名人を起用した朗読会や様々な分野の講師による講演会、子ども向けのイベント等を通じ、幅広い層に文学に触れる機会を提供しました。
また、コロナ禍において初のウェブ展示を実施するなど、従来とは異なる取組も実施しました。

＜区政世論調査結果から見える課題＞
■ 区の芸術文化で特色のある分野として「俳句」を認識している区民の割合は、12.8%であり、区内での認知度には課題があるといえます。

荒川区への誇りと愛着を育み、これらの文化をいかした魅力ある地域づくりを推進していくためには、区民にとって俳句をさらに身近に感じられる取組を展開していく必要があります。

4－2 芸術文化を暮らしや産業活動にいかす

地域の芸術文化団体や事業者と連携したファッション関連イベントの実施など、芸術文化の力を暮らしや産業活動にいかす取組を推進しました。

主な事業

○日暮里ファッションデザインコンテスト
○障がい者の芸術文化活動・心身の活力を高める取組の推進
（さくら教室(荒川区心身障がい者青年教室)等での音楽や創作活動、作品展の開催等）
○芸術文化を通したモノづくりの推進（新製品・新技術開発補助）　等

▲日暮里ファッションデザインコンテスト

▲さくら教室作品展

【評　価】　※凡例　●:成果　■:課題

● 日暮里ファッションデザインコンテストについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年（2020年）度以降、実施方法をファッションショー方式から、展示形式に変更し開催しています。

● 令和3年（2021年）に新たにオープンした日暮里地域活性化施設「ふらっとにっぽり」を拠点に、地域の事業者等と連携し、芸術文化の力を魅力的なまちづくりにいかしながら、「繊維の街・ファッションの街　日暮里」の定着を推進しています。

● 障がい者の芸術文化活動・心身の活力を高める取組として、アートセラピーや作品展の開催等を実施しています。令和5年（2023年）3月に、国の「障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画（第2期）」が策定されたことを受けて、取組を更に拡充する必要があります。

<区政世論調査結果から見える課題>

■ 区の芸術文化で特色のある分野として「服飾（ファッション）」を認識している区民の割合は 12.9%であり、区内での認知度には課題があるといえます。

荒川区の特色のひとつ、服飾・繊維関連店舗の集積地「日暮里繊維街」と連携しながら、ファッション関連イベント等をさらに充実するなど、区民にとってファッションをさらに身近に感じられる取組を展開していく必要があります。

4ー3 多文化共生の推進

海外友好都市との交流事業のほか、区内の外国人住民の生活を支援する事業や地域交流事業等を通じて、様々な文化に親しむことができる環境づくりを推進しました。

主な事業

○海外友好都市交流事業（ウィーン市ドナウシュタット区との高校生相互派遣事業等）

○在住外国人支援事業（日本語教室・日本語サロン、通訳ボランティア養成、外国人のための防災講座等 荒川区国際交流協会主催事業）

○外国人住民との地域交流事業（国際交流バスハイク、茶道・華道教室、外国人による日本語スピーチ大会等 荒川区国際交流協会主催事業） 等

▲日本語教室

▲華道教室

【評 価】 ※凡例 ●:成果 ■:課題

● 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年（2020年）～4年（2022年）度は、海外友好都市との交流事業や区内の在住外国人支援・交流事業の多くが中止となりました。

一方で、ウィーン市ドナウシュタット区高校生相互派遣事業や外国人住民による日本語スピーチ大会では、オンラインでの動画を通した交流や発信を行うなど新たな手法による事業を実施しました。

■ コロナ禍により一時的に減少したものの、在住外国人や来訪観光客が増加傾向にあり、区内のグローバル化が進む中、外国人住民の日本語学習支援や交流事業を一層充実させていく必要があります。

基本目標5　荒川区の魅力を発信する

5ー1 観光との連携による区のPRの推進

歴史や伝統工芸、モノづくり産業など、荒川区が持つ地域の魅力を区内外に積極的に発信したほか、魅力をPRできるボランティア人材の育成を図りました。

主な事業

○観光ボランティアガイド活動の推進
○モノづくり見学・体験スポット事業
（新型コロナウイルス感染症の影響による、在宅でのモノづくり体験「おうちでモノづくりキット」事業、東京駅付近 KITTE 内にて「あらかわモノスポ」開催）
○まちあるきマップ等の配布　等

▲「あらかわモノスポ」

▲まちあるきマップ等の多様なパンフレット

【評　価】　※凡例　●：成果　■：課題

● コロナ禍において、観光関連事業の多くが中止となりましたが、オンラインを活用した俳句活用事業や在宅でも実施可能な「おうちでモノづくりキット」事業等を実施しました。また、令和4年（2022年）度からは、区民ボランティアによるガイド活動を再開し、まちあるきマップの作成、各種のイベント開催など、観光文化の観点から区の魅力の発信を図りました。

5－2 都市交流の推進

区内の芸術文化団体の交流都市への派遣など、芸術文化を通じた都市交流の推進を図りました。

主な事業

○あらかわキャラバン事業（区を代表する芸術文化団体を交流都市へ派遣し、現地公演等を行ってもらうことによる民間団体の文化交流事業）
○「交流都市フェア」の開催（令和2年（2020 年）～4年（2022 年）度はオンライン開催）
○自然体験を通した交流事業（交流都市への区民ツアー）　等

▲交流都市フェア

▲稲作体験交流事業

【評　価】　※凡例　●:成果　■:課題

● 新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年（2020年）～4年（2022年）度は、国内交流都市との交流事業の多くが中止となりましたが、日暮里駅前ひろばで開催していた「交流都市フェア」や潮来市との稲作体験交流などについて、オンラインを活用した交流事業を継続しました。

■ 今後も、荒川区の魅力を他自治体へ発信する機会として、芸術文化等を通した人的な都市間交流をさらに活発化させていく必要があります。

5－3 荒川区らしさの発掘・発信

荒川区の歴史や伝統工芸などをいかした事業を実施するとともに、都内唯一の公営遊園地である荒川遊園のリニューアルオープンなど、地域の魅力を広く区内外に発信しました。

主な事業

○荒川遊園のリニューアル
○太田道灌魅力発信事業（日暮里道灌まつりの開催）
○魅力ある芸術文化イベントの企画を区内から広く募集し、優れた企画に対し、実施に向けた支援を実施する「文化イベント企画応援プロジェクト」　等

▲リニューアルした荒川遊園

▲太田道灌魅力発信事業（道灌まつり）

【評　価】　※凡例　●：成果　■：課題

■ 地域の魅力発信は、新たなにぎわい創出に寄与するとともに、自らの地域の文化に対する誇りや愛着の醸成につながることから、引き続き、荒川区独自の文化・荒川区らしい魅力を発掘し・発信していく必要があります。

● 太田道灌や荒川遊園など、荒川区がもつ地域の魅力をいかしたイベントを開催し、区内外に広く発信しました。